

2.1 Javaの開発ツールを 入手しよう

Javaの実行環境と、開発ツールのEclipse、Android向けアプリケーションの開発ツール『Android SDK』をダウンロードしましょう。本書では、Windowsパソコンへのインストール方法を説明します。

Javaをインストールしよう

まず、最新のJava実行環境を入手しましょう。Javaは、Java公式サイト(<http://www.java.com/ja/>)から無償でダウンロードできます。あるいは、Javaで作られたソフトウェアをインストールしたときに、自動的にJavaが組み込まれているかもしれません。

使用しているJavaが最新のバージョンかどうかは、

<http://www.java.com/ja/download/installed.jsp>

で調べられます。

Javaが最新であれば、「正常な設定です。」と表示され、ダウンロードは実行されません。Javaが最新でない場合は、画面の指示に従ってインストールしてください。

ユーザーアカウントの確認

Windowsのユーザーアカウント名が日本語の場合、Eclipseのインストールがうまくいかない場合があります。セットアップする前に、お使いのユーザーアカウントを確認してください。アカウント名が日本語の場合は、アカウント名を欧文に変更するか、開発用に新しいアカウントを作成しましょう。

名前の変更や新しいユーザーアカウントの作成は、Windowsのコントロールパネルの「ユーザーアカウント」で設定できます。

Eclipseをインストールしよう

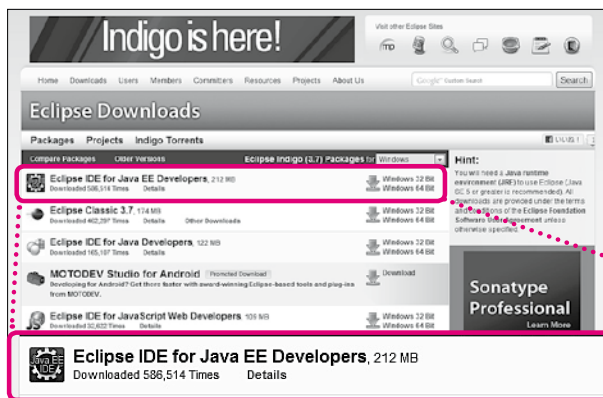
それでは、Eclipseをセットアップしましょう。

Eclipseは、Eclipse Foundationのサイトからダウンロードできます。

<http://www.eclipse.org/downloads/>

ダウンロードのページを開くと、いくつかの種類が一覧表示されます。本書では、『Eclipse IDE for Java EE Developers』を使用します。

①『Eclipse IDE for Java EE Developers』を選択



お使いのWindows環境に合うバージョンをクリックします。

②ダウンロードを開始する



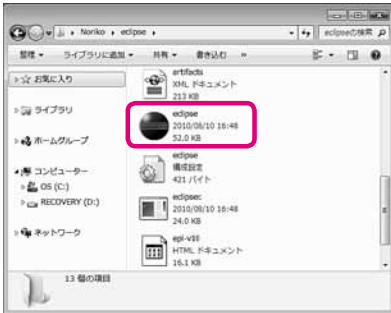
ミラーサイトの選択ページが開くので、近くのサイトへのリンクをクリックしてダウンロードを開始します。

ダウンロードしたファイルをハードディスクの好きな場所に伸張すれば、インストールは完了です。

Eclipseを起動しよう

Eclipseをインストールした場所を開き、『Eclipse』のアイコンをダブルクリックして起動してみましょう。

① Eclipseを起動する



インストールした場所を開き、Eclipseのアイコンをダブルクリックして起動します。

② Workspaceを指定する

Workspaceは、作成したプロジェクトを保存する場所です。いつも同じ場所に保存する場合は、チェックを付けておくと次回からこのメッセージは表示されなくなります。



③ Welcomeページが表示される



起動すると、Welcomeページが表示されます。Eclipseの概要や新機能の紹介、チュートリアル、サンプルなど開発に役立つ情報が含まれていますので、時間があるときにしておくことをお勧めします。

Android SDKをダウンロードしよう

続いて、Android SDKをダウンロードしましょう。Android SDKがあれば、Android端末がなくてもエミュレーター上でのアプリケーション開発が可能になります。インストールはEclipseから行うので、ここではダウンロードだけしておきます。

Android SDKは、Android Developersのサイト (<http://developer.android.com/>) から無償でダウンロードできます。

① Android SDKをダウンロードする



日本語表示に切り替え、[Android SDKをダウンロード] をクリックしてダウンロードページに進み、Windows用のパッケージをダウンロードします。

② ダウンロードしたファイルを展開する



ダウンロードしたAndroid SDKは、ZIP形式の圧縮ファイルとして保存されます。ユーザーディレクトリの直下など、わかりやすい場所に伸張しておきましょう。

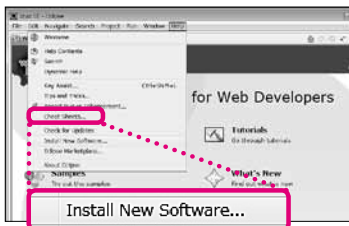
2.2 ADTとAndroid SDKのインストール

次に、EclipseでAndroidアプリケーションを開発するための準備をしましょう。EclipseでAndroid開発とデバッグ機能を追加するADTプラグインと、先ほどダウンロードしたAndroid SDKをインストールします。

ADTプラグインをインストールしよう

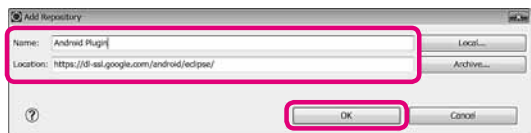
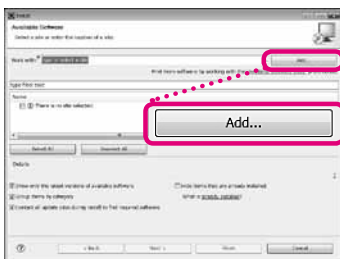
ADTプラグイン(Android Development Tools plugin for Eclipse)は、開発ツールEclipseにAndroidアプリケーションの作成やデバッグ機能を追加する拡張機能です。ADTプラグインは、Eclipseからインストールを行います。

① [Install] ダイアログを開く



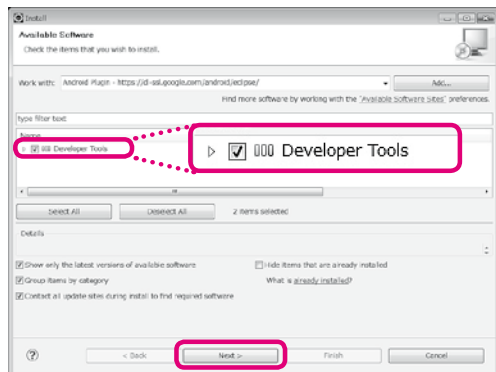
Eclipseを起動して、メニューから [Help] → [Install New Software] を選択します。

② インストールするADTの名前とサイトを指定する



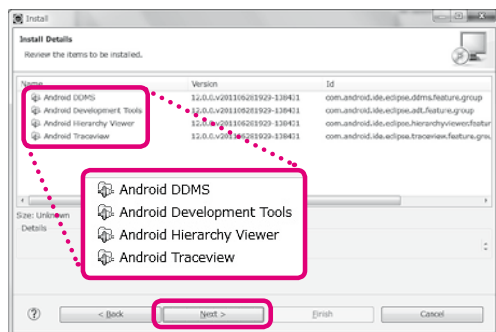
[Add] ボタンをクリックして [Add Repository] ダイアログを開きます。Name欄に「Android Plugin」、Location欄に「https://dl-ssl.google.com/android/eclipse/」と入力して、[OK] ボタンをクリックします。

③ 「Developer Tools」 を選択



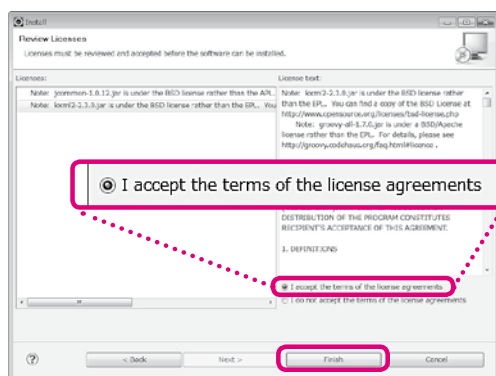
「Developer Tools」 にチェックを付けて、[Next] ボタンをクリックします。

④ インストール内容を確認



「Android DDMS」「Android Development Tools」などがリストに表示されます。[Next] ボタンをクリックします。

⑤ ライセンスを承認してインストールを始める



ライセンスが表示されるので、「I accept the terms of the license agreements」を選択して、[Finish] ボタンをクリックするとインストールが始まります。

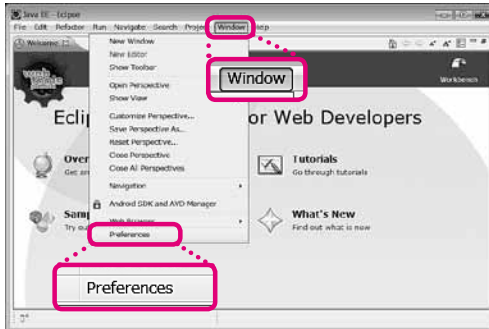
途中で警告のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックして続行してください。

最後に [Restart Now] ボタンをクリックして、Eclipseを再起動します。

Android SDKの場所を設定

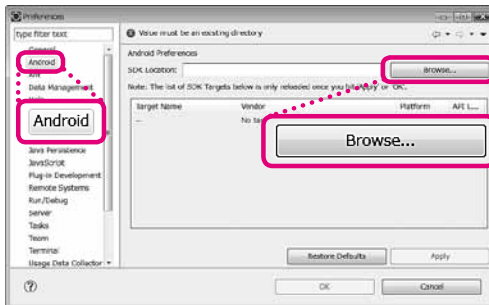
Eclipseからエミュレーターを実行環境として呼び出せるように、Android SDKの場所を設定します。

① Preferencesを開く



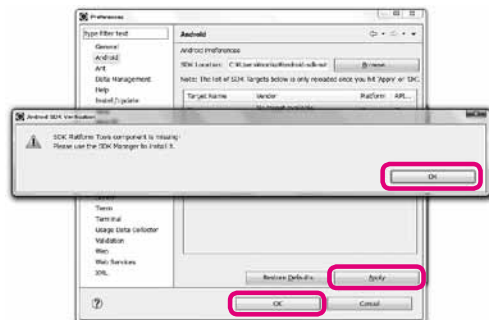
Eclipseのメニューから [Window] → [Preferences] を選択します。

② Android SDKの場所を開く



左のメニューから「Android」を選択し、[Browse] ボタンをクリックしてSDKをインストールした場所を開きます。

③ 設定完了

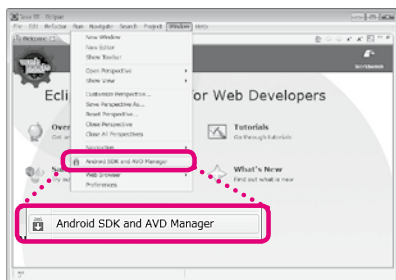


「SDK Platform Toolsが見つからない」という内容のアラートが表示されますが、[OK]ボタンをクリックして閉じてかまいません。アラートが消えたら[Apply]ボタンをクリックし、続けて[OK]ボタンをクリックします。

Android SDKをインストールしよう

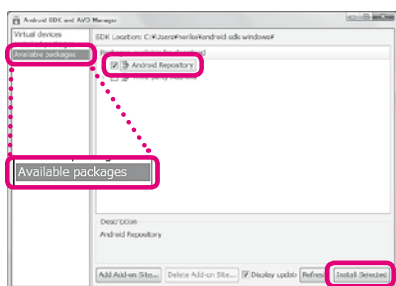
EclipseからAndroid SDKを呼び出せるようになったので、必要なパッケージをインストールしましょう。

① 「Android SDK and AVD Manager」 を起動



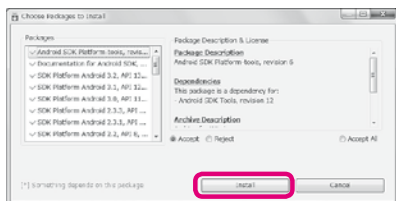
[Window] → [Android SDK and AVD Manager] を選択して起動します。

② インストール項目を選択



左のメニューから「Available Packages」を選び、右側に表示されているチェックボックスにチェックを付けて、[Install Selected] ボタンをクリックします。

③ インストールを始める



次の画面で [Install] ボタンをクリックすると、インストールが始まります。

④ インストール完了

インストールが終わったら、[Close] ボタンをクリックして [Android SDK and AVD Manager] ダイアログに戻ります。

